

## 令和 7 年度 第 3 回群馬支部評議会 議事概要

開催日	令和 8 年 1 月 19 日 (月) 10:00 ~ 12:00
開催場所	協会けんぽ群馬支部 (JOMO スクエア) 4 階 大会議室
出席者	上山評議員、木村評議員、齋藤評議員、坂本評議員、関評議員、細野評議員、宮崎評議員、吉田評議員 (五十音順)
議題	<ol style="list-style-type: none"><li>令和 8 年度 保険料率について</li><li>令和 8 年度 群馬支部事業計画 (案) 及び令和 8 年度 支部保険者機能強化予算 (案) について</li><li>その他</li></ol>
議事概要 (主な意見等)	各議題につき事務局より資料に基づき説明。主な質疑応答内容は以下のとおり。
<u>○議題 1. 令和 8 年度 保険料率について</u>	
■資料 1 令和 8 年度 保険料率について	
事務局より議題 1 について説明	
【被保険者代表】	
10 月の各支部の評議会では、平均保険料率 10% 維持との意見が多い中、なぜ 9.9% に引き下げを行ったのか。また、準備金残高を見るともっと引き下げできたのではないかと思うが、引き下げ率はなぜ 0.1% なのか。	
«事務局»	
支部評議会の意見では 10% 維持の意見が多かったが、社会情勢を踏まえ、厚生労働省からの要請や運営委員会でも引き下げの意見が多かったことなど総合的に判断した結果となる。下げ幅については、協会の財政に影響を及ぼさない程度でということで、財政見通しのシミュレーションを参考にした結果が引き下げ率 0.1% となった。単年度収支では、平均保険料率を 9.9% とした場合、賃金上昇率が 1.8% であった場合、2034 年までは黒字で推移する結果となっている。今後 10 年単位	

での見通しを確認しながら、保険料率を決めていかないといけないと考えている。

### 【事業主代表】

これまでの平均保険料率の議論の中で、平均保険料率を引き下げるデメリットがあるとの説明があったが、そのデメリットがどこまで払しょくされたのか。2点目として、平均保険料率が引き下げられる状況において、準備金の長期運用についてもう少し強めの検討が必要ではないか。

また、子ども・子育て支援金が追加され、実質的な負担は増加しており、平均保険料率 9.9%への引き下げが意味をなしていないのではないか。なぜ 9.9%としたのか説明が必要と考える。

### «事務局»

平均保険料率を引き下げた場合、現在の国庫補助率 16.4%が引き下げられる恐れがあると説明をしてきたところではあるが、大臣折衝のとおり令和 8 年度から 10 年度にかけて、各年度約 500 億円の上乗せが生じることとなり、その間の国庫補助率は維持できると考えている。

準備金の長期運用については、今年度から試験的に開始されたものであるので、今後も議論が必要と考える。

平均保険料率の設定に関してはご意見として承る。

### 【学識経験者】

今回のような厚生労働省からの保険料率引き下げの要請は、以前からあったのか。全世代型社会保障制度の流れからすると、今後も更に引き下げということになるのか。

### «事務局»

厚生労働省からの要請を評議会資料の中で示すことは初めてと思われる。保険料率は、今後の財政状況や社会情勢の経緯などを踏まえた判断となる。

### 【事業主代表】

以前から平均保険料率の引き下げについて意見をしてきたので、今回の引き下げで思いが通じた感がある。ただ、平均保険料率は 9.9%ではないといけないのか。ここ 10 年程協会けんぽが平均保険料率 10%を維持し、準備金を漫然と積み上げて

きたことは、怠慢ではないかと考える。

今後も加入者への還元を十分に検討してほしい。

**【学識経験者】**

準備金残高に数値目標を設けて、目標を超えたたら加入者に還元することを考えてもいいのではないか。

«事務局»

ご意見として承る。

**○議題 2. 令和8年度 群馬支部事業計画（案）及び令和8年度 支部保険者機能強化予算（案）について**

■資料 2-1 令和8年度 群馬支部事業計画（案）について

■資料 2-2 令和8年度 支部保険者機能強化予算（案）について

事務局より説明

**【学識経験者】**

インセンティブ制度を導入した協会全体の効果について、評価を行い説明してもらいたい。また、特定保健指導の実施率が低いが地域の属性から、順位を上げるのは無理なのか。順位が上がったところの支部の取り組みを横展開してみてはどうか。

また協会けんぱではAⅠなどを点検業務や医療費適正化などに活用しているのか。

«事務局»

インセンティブ制度の評価については、ご意見として承る。

好事例は共有されており、群馬支部でも事業の参考としている。

指標の特定保健指導の実施率が低いのは、群馬県全体の傾向でもあり、特定保健指導の実施率が高い支部は、健診機関での特定保健指導の実施率が高い。健診機関での実施率向上に努めてまいりたい。

AⅠの活用については、給付申請の審査やレセプト内容点検などでは業務のデジタル化を進めている。

**【事業主代表】**

健診機関で受診した情報は、どこまで協会けんぽに届いているのか。

『事務局』

健診機関から協会けんぽへの健診や特定保健指導の費用請求が行われるため、請求に併せてデータが提供されている。

【被保険者代表】

研修はなかなか会場まで行けないので、ハイブリット方式で行ってほしい。また、日中は業務が忙しく聞けないので、アーカイブ配信で好きな時間に聞けるようにしてもらいたい。

○議題 3. その他

特になし。

**特記事項**

- ・傍聴者 1 名
- ・次回は、令和 8 年 3 月開催予定